

村上大気 学位論文審査要旨

主査 海藤 俊行
副主査 内田 伸恵
同 永島 英樹

主論文

Useful ultrasonographic evaluation of the medial meniscus as a feature predicting the onset of radiographic knee osteoarthritis

(X線学的変形性膝関節症の発症を予見する特徴としての内側半月板の有用な超音波評価)

(著者：村上大気、榎田誠、川口馨、大槻亮二、永島英樹)

平成29年 Journal of Orthopaedic Science 22巻 318頁～324頁

参考論文

1. Ossified metaplastic spinal meningioma without psammomatous calcification: a case report

(砂粒体の石灰化を伴わない骨化した化生性脊髄髄膜腫：症例報告)

(著者：村上大気、谷島伸二、武田知加子、加藤信介、永島英樹)

令和元年 Yonago Acta Medica 62巻 232頁～235頁

2. Little Leaguer's shoulderの治療経験

(著者：村上大気、縄田耕二、那須吉郎、岸本英彰、橋口浩一、山本敦史、高橋良正、山崎大輔、山根逸郎、田中秀敏)

平成19年 整形外科と災害外科 56巻 491頁～494頁

3. 大腿骨転子部骨折に対する髓内釘固定術後の同側大腿骨骨幹部骨折の治療経験

(著者：村上大気、濱本佑樹、山本真人、谷田玲、近藤康光)

平成28年 整形外科と災害外科 65巻 119頁～121頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はX線学的初期変形性膝関節症（OA）および早期OAを有する中高齢者を対象に、超音波を用いて荷重時と非荷重時の内側半月板側方偏位（medial radial displacement ;MRD）を測定し、約5年間の追跡調査を行ったものである。その結果、MRD値を骨格の大きさに補正したmedial displacement index（MDI）の荷重時と非荷重時の差が大きい症例で、OAが進行することが明らかになった。本論文の内容は、非侵襲的な超音波により計測できるOA進行の予見因子を発見したことで、今後の予防医学に結びつく可能性を示唆したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。